

産業都市刈谷の現在と地域コミュニティ形成

—自動車産業就業者男性の定住化と地域的紐帯をめぐって—

名古屋大学 丹辺宣彦

1 目的

本報告の目的は、自動車産業が集積し、デンソー、アイシン精機、トヨタ車体、トヨタ紡織などトヨタ・グループ大手企業本社・工場が多数立地している愛知県刈谷市の地域コミュニティ形成の現状について明らかにすることである。このために、男性住民が有している社会関係資本、社会活動への参加に着目し、それらを居住歴と家族関係、職場へのコミットメントと職住の近接性、社会意識といった諸要因により説明する。この作業を通じて、かつて秋元律郎(1971)が調査した 1960 年代当時との違いを明らかにし、産業グローバル化先進地域のコミュニティの特徴を明確にしたい。

2 方法

調査データとしては、2012 年 8 月に実施した質問紙調査「刈谷市のまちづくりと市民活動に関する調査」を主とし、調査対象地区の地区長、市役所、ボランティア活動支援センターに実施したインタビュー調査データを補完的に用いる。質問紙調査は、南北に長い刈谷市から、トヨタ車体本社工場を取り巻く北部地区(東境・一里山・今岡地区)、中心市街地(桜・刈谷東部地区)、南部の住宅地区(野田地区)を選び(有意抽出)、住民基本台帳から無作為に抽出した 30~69 歳の男女 3000 人に対して郵送(往復)で実施した。有効回収率は 40.4%(1213 票)であった。本報告のデータでは、調査対象地区の対象年齢人口・性比にしたがいウェイト・バックした値を用いている。

3 結果

トヨタ・グループに勤務する人・退職者の市内居住年数/現住地居住年数の平均は 28.5 年/19.7 年、うち市外出身者でも 21.6 年/15.5 年と現時点では長くなっている。その世帯では他就業先の男性と比べ近代家族的な性別役割分業がやや強くみられ、通勤時間は 28.6 分と大都市圏にははるかに短く職住が接近している。このため、居住地域に職場の知り合いが数名以上住んでいる人の割合が半数を越し、その割合は就労期間を通じて増えていく。退職年齢が近づくにつれ、近隣との付き合いが強まっていき、このことが 50 代後半以降の地域活動参加を非常に活発にしていることが多変量解析の結果からも明らかになった。各企業が組織する社会貢献活動への参加は他方でかなりみられるが、それとは別に、従業員の生活レベルにみられる社会関係資本の多さ、職住の接近・安定という構造的要因が、活動参加を支えていたのである。

4 結論

地域経済の長期的発展に支えられた定住化が進行し、開発期にみられた自動車産業就労者の地域社会からの疎外状態・無関心は解消され、現在では反対に男性の地域的紐帯が強く、地域活動参加がきわめて活発な特異な状況をもたらしている。他方で、周辺の流動層はこの紐帯、地域活動参加には十分関与できていない。技術・技能系中間層が分厚い地域的階層構造、男性の社会的紐帯の強さ、地区向けの集合財供給の活発さ、という地域コミュニティの特徴は隣接する豊田市と共通のもので(丹辺 2011)、産業の発展・集積が長期間続いた一脱産業化が目立つ先進国内では珍しい一地域ならではのものと言えるだろう。

文献

秋元律郎, 1971, 『現代都市の権力構造』, 青木書店.

丹辺宣彦, 2011, 「産業グローバル化先進都市豊田の住民活動と社会的ネットワーク」, 『日本都市社会学会年報』, 29 号, 111-126.